

「知的障がい児校の課題別学習における社会科教育 —寝台列車に乗って山陰地方を旅しよう—

埼玉県立和光特別支援学校 高等部 土田謙次
2012 (H24) 年7月 日作成

第1部 はじめに (自己紹介・学校紹介)

・私は、16年間中学校社会科の教師を勤めた後、肢体不自由養護学校2校に9年間、知的障害養護学校も2校に9年勤務し、現在は再び肢体不自由校に勤務している。この実践は、昨年度、前任校の埼玉県立川越特別支援学校の高1担当の時のものである。

・川越特別支援学校のある川越市は、埼玉県の中央部にあり、人口34万人で小江戸川越と呼ばれる近郊都市である。学区は川越市の他2市1町に及び、生徒数は小学部から高等部まで156名、職員数は90名という大規模校である。

・その中で、私が昨年度所属していた高1は、生徒30人、教員16人という集団であった。



*自分の実践のねらい (どういうテーマで、どのような実践をしようとしたのか) や課題

・今回レポートを書いたのは3回目である。1回目は「沖縄と長崎の修学旅行での平和学習」、2回目は「長崎の修学旅行の事前学習での社会科的内容の学習」と、行事やその事前学習における社会科的内容の学習であった。そして、そうした私のレポートに対して、昨年の福岡大会で、以下のようなアドバイスをもらった。

- ①色々沢山のものを取り上げるのもいいが、1つのものを軸に展開していくとよい。
- ②生徒がどれくらいわかったとか、どこで反応が良かったとか、授業記録をしっかりと、それを資料として残すこと。
- ③行事の事前学習だけでなく、総合的学習で「日本のお祭りを体験しよう」(地理+音楽等)などもできる。
- ④発表会を行い、生徒たちに掲示物を作らせたり、残るものを作らせる。

・そこで、今回は「知的障がい児校の日常的な課題別学習における社会科的内容の学習」をテーマにした。そして、以下のような構想を練り、授業を行った。

第2部

(1) 土田が行った「寝台列車に乗って、山陰地方を旅しよう」の実践は…①授業計画

◎構想…寝台列車による山陰地方への旅を取り上げた理由は

- ①土田がちょうど、こういう旅行を計画していた。実行はできなかったが…。
- ②多くの生徒が、電車や列車が好きであり、興味・関心を持っている。
→教師も得意な分野を生かし、生徒の興味・関心を生かして、実践することにした。

☆からあげ G 3 学期 「国語＋総合的学習」 の授業計画

2012年1月10日 土田

◎テーマ 「寝台列車に乗って、山陰地方を旅しよう」

◎授業の主な内容

- 生徒たちの好きな列車について勉強する。
- それに乗って、山陰地方（鳥取県・島根県）を旅するという設定で、この地方の地理や風物、産物について、楽しく勉強する。

◎主なねらい

- ①生徒たちが普段の授業の中であまり学習する機会のない「社会科的学習内容（地理・歴史・公民）」に触れさせ、社会を見る（わかる）力（＝人間が自分の住む土地の特性を生かして様々な工夫をして暮らしていることがわかる・そのことを感じる力等）をつける。
- ②卒業後も含めた旅行がより一層楽しめるように、景色を見る、味を楽しむ、踊りを見たり・自分で踊ってみたり、等の模擬体験をさせる。
- ③今までの国語の授業の中で、引きだせなかった生徒の興味・関心や動きのある授業を試す。

◎留意点

- 本来の国語（読み・書き）の授業と極端にかけ離れた内容にならないように十分留意し、基本的には「書く」学習を随時入れていく。
 - 基本的な授業構成である「1、本を読む」は、引き続き行っていく。
 - せっかくの特別授業なので、現場実習で生徒が抜ける日は避け、全員がいる日に授業を組む。
- * 1月当初は、書初めをし、現場実習で全員がそろわない日は、個人学習等を入れていく。

◎簡単な授業計画（一応 11 時間扱いの予定）

サブテーマ	時間	月／日	主な学習内容 <u>アンダーライン</u> は国語の学習
①寝台列車について 知ろう	2 時間扱い	1 / 27 (金) 2 / 2 (木)	JR のホームページの写真を使って、電車の種類や、寝台特急の種類を知る。 <u>名前を書く。</u> 地図を見て地名・県名を書く。
②鳥取県について 知ろう	3 時間	2 / 3 (金) 2 / 8 (水) 2 / 22 (水)	鳥取県の名物（鳥取砂丘、二十世紀なし、らっきょう、松葉ガニ等）について、写真や実物で、見たり味わったりして知る。これらの産物について、 <u>その名前を書く。</u>
③島根県について 知ろう	4 時間	2 / 23 (木) 2 / 29 (水) 3 / 1 (木) 3 / 2 (金) 3 / 7 (水) 本時	島根県の名物（出雲大社、石見銀山、安来節、宍道湖のしじみ等）について、写真や実物で、見たり味わったりして知る。*安来節を踊ってみる。これらの産物について、 <u>その名前を書く。</u>
④学習を振り返って * 山陰地方カルタを しよう等	2 時間	3 / 8 (木) 3 / 15 (木)	今までの学習を振り返って、山陰地方カルタ取りをする。

(2) 課題別学習グループの概要と生徒の実態

・本校では、高等部1年生30人を、主に国語と数学の能力別に、5つのグループに分けて、課題別グループ学習を行っている。本実践は、その中の（能力的には）上から3番目の「からあげグループ」で行われたものである。このグループには5人の生徒が所属している。5人とも本校の中学部から進学してきた生徒である。障がいの実態としては、言葉によるコミュニケーションが取れる生徒が3人で、後の2人は、わずかな発語で会話をしている。自閉的傾向の強い生徒が2人おり、特に1人は、強度の行動問題があり、周りの人（特に男性教員）が自分の気に入らない行動（例として「ごめん」「あっ!」「違うよ」等の言葉かけやくしゃみ等）をした時に、時としていきなり思い切り体当たりをしたり、相手の事を蹴ったり殴ったりする。そのこともあって、この生徒については無理に席に付かせたり、課題をさせたりはしないである程度本人のやりたいようにさせるという方針で授業を行っていた。

(3) 実践報告

***パワーポイントを見てもらい、その中で紹介する。→（別紙参照）**

◎自分なりに工夫した点

- ・電子黒板のタッチパネルを活用した。
- ・PP教材からYouTubeのビデオに飛ぶ。
- ・実物資料（らっきょう・松葉ガニ・どじょう）
- ・山陰地方カルタ

◎子供たちの様子

- ・白地図とドジョウの絵をスキャナーで取り込んで紹介。→（別紙参照）+ 本時の指導案も
- ・授業のビデオ
- ・授業の写真（ドジョウを見ている。安来節に挑戦）

第3部 実践の評価・反省

◎もらったアドバイスに対して

- ・4つもらったアドバイスのうち、②③は自分なりにできたが、①④については、できなかった。

◎その他の評価

- ・電子黒板のタッチパネル、YouTubeのビデオ、実物資料（どじょう）等を使って、生徒の興味関心を高めることができた。
- ・生徒たちの好きなもの（電車・カルタ等）を授業の中で生かし、生徒の興味関心を高めることができた。
- ・現実的に、担当する国語とからめながら、社会科的な授業をすることができた。

×その他の反省

- ・安来節を生徒と一緒に踊ったりしたかったが、予想外の難しさで、やって見せることで精一杯であった。
- ・体制的な難しさもあり、授業記録が十分にできなかった。特にビデオ・写真等。
- ・生徒に掲示物等を書かせたり、作らせたりはできなかった。
- ・なぜ山陰地方なのかと問われた時に、自分が旅行するつもりだったという以外に説明できない。（もちろん、一つの地方を取り上げて、社会科的な内容を学習するという意味はあると思うが）
- ・どれくらい社会科的な力を伸ばせたか？

◎みなさんに伺いたいこと

- ・自分ならこうした、こうする・自分はこうしている、というご意見。